

SELP Vision 2030 事例紹介

2023.5.22掲載

地域に暮らす方々の「食」と 障がいのある方の「職」を支え、 地域への愛着につながる活動を展開 公益社団法人やどかりの里 エンジュ

SELP Vision 2030より、主に実現したチャレンジ

2



4



事業所紹介

所在地	埼玉県 さいたま市
法人名	公益社団法人 やどかりの里
施設・事業所名	エンジュ
事業種類	就労継続支援 B 型
主たる障害	精神障害
定員	33人（令和5年4月末現在）

● 命を支える「食」を通じて安心と楽しみを提供

エンジュは「障がい者の働きたいを実現」するために、1997年に設立された就労継続支援 B 型事業所です。運営母体である公益社団法人やどかりの里は、1970年にアパートを借りて障がいのある方の生活支援をスタートさせ、1990年には通所型授産施設として印刷工場を立ち上げました。その後、食事は利用者が地域で暮らすための「安心の保障」であるとの気づきから、1997年に配食事業にシフトし、現在は食事作りが困難な地域の高齢者や障がい者に年間約 8 万食（2022 年度実績）のお弁当を提供しています。

食事は命を支える大切なものです。地域の方々が安心して楽しめるよう、地元の食材や旬の食材等を使用した手作りのお弁当をお届けしています。さらに、管理栄養士による栄養相談を行い、健康診断結果の数値が気になる高齢者や障がい者にも召し上がれるのが特徴です。

お弁当の宅配は昼食と夕食の1日2回です。安否確認を兼ねた個別配達を週1～5日行っています。エンジュでは、さいたま市が65歳以上の単身生活者に行っている配食サービス事業を受託しているほか、地域にはたらきかけて独自に利用顧客を開拓しています。そのほか、近くの病院で働く医師や看護師へお弁当の仕出しを行うこともあります。昼食は1日平均175食、多いときは220食のお弁当を配達します。刻み食やおかゆ等、配慮が必要な方への対応はもちろん、「調子の悪いときだけ届けて欲しい」といった要望にも柔軟に対応します。このほかにも、地域の幼稚園や高齢者施設を対象としたお菓子の製造販売も実施しており、毎月のお誕生日会などご利用いただいています。



主菜1品と副菜3品 旬の食材を使用

SELP Vision 2030 事例紹介

2022.5.22掲載

● 長く働き続けることができる「職」の場の提供

2023年4月1日時点の登録利用者は59人です。1日平均22～25人が出勤し、本人の希望や適性に応じて調理補助、洗い物、配達、電話対応、会計など、管理栄養士のもとでほとんどすべての業務を担っています。

勤務時間は1日30分～7時間/週1～5日の間で、症状や体調に応じた多様な働き方を尊重しています。季節によって休みがちになったり、「辞めたい」と申し出る利用者もありますが、そんなときは「あわてて決めなくてもいいよ。無理せずしっかり休んで、体調が落ち着いたらまた働こう」と声を掛けています。一般就労で働きはじめた利用者でも、職場環境が合わないことから戻って来る場合もあるため、「ここはいつでも戻ってこられる場所」であることを伝え、長い目で見守る姿勢を大切にしています。

利用者の中には、人との交流機会が少ないことから成功体験が薄い方もいます。しかし、当事業所で働くことで一緒に働く仲間ができ、地域の方との交流の機会になっています。利用者からは「地域の方のありがたいの言葉が生きがいにつながっている」、「配達の仕事を通して、人との付き合いをより深くできた」、「頑張っって欲しいものが買えた」という声が聞かれ、仕事へのやりがいと人とのつながりの大切さを感じることができています。



● 地域の人々とつながり、息の長い活動を

2004年、評価測定の一環として弁当宅配を利用する方々に聞き取り調査を行ったところ、「弁当を見ることで季節を感じる」「楽しみだ」という声を多くいただきました。毎日の配達で顔の見える関係を築けているため、包括でケアプランを作成する際、必要があればその方の暮らし方を伝えるなど、お弁当をきっかけに地域とつながることができています。実際、配達に訪れたことで一命を取り留めた例もあり、一食の食事と配達がその人の命を支えていることを改めて認識しました。

スタートから25年が経過し、利用者が地域の人々の食をサポートすることで、今までサービスの受け手であった利用者が、地域作りの担い手として自己評価を高めることができたと感じています。食でのつながりは強力なツールです。近年は地域のお祭りなどに「出店しませんか」とお声がけいただくことも増えてきました。

現在はエシカルをテーマにしたコミュニティカフェをオープンする準備も進めています。

利用者が地域に愛着を持って活動し、地域の方と一緒に必要なものを作り、支えることで、地域の住民に必要なサービスをみんなで担う「地域の支え合い」活動を続けていきます。



事業の担い手